

とらのもん

VOL. 35



仏の座です

発行 全国醸造機器工業組合

〒104-0054 東京都中央区勝どき2-18-1-518

Tel 03 (5548) 5890 fax 03 (5548) 5895

e-mail zjkk@zjkk.or.jp http://www.zjkk.or.jp

新春セミナー&賀詞交歓会 in (カレーがおいしい)松本楼!

去る1月22日、東京日比谷松本楼において平成19年「新春セミナー」ならびに「賀詞交歓会」が開催された。賀詞交歓会には初参加の経済産業省の担当課長補佐、日本酒造組合の担当理事などのご来賓を含め30名がつどい、業界の更なる発展に向けた活発な意見交換がなされ、盛況のうちに終了した。

第1部 新春セミナー



「酒類総合研究所の最近の動向から」と題して当研究所理事木崎康造氏が講演。
当研究所東京事務所の業務概況

東京事務所の業務

東京事務所は、理事、情報技術支援部門職員7名のほか非常勤職員3名で業務を実施。

場所：東京都北区滝野川2-6-30 JR東日本・京浜東北線王子駅徒歩5分

- 1 清酒製造技術講習
清酒メーカーの経験の浅い従業員対象の講習。約40日間。赤レンガ酒造工場使用
- 2 エヌリブ及びお酒のはなし等の発行
エヌリブは広報誌。お酒のはなしは情報誌。「日本酒ラベルの用語事典」の発行（日本語、英語バージョンあり。中国語版の発行準備。）
- 3 教養講座
市民を対象とした講座。17年度は、広島（11月22日）、仙台（11月30日）及び大阪（12月6日）で昼夜の2回開催。
- 4 酒セミナー
酒類の卸、小売業者を対象とした講習。今年度実績はこれまで12回（12月まで）。
- 5 コア講師講習
酒類販売管理者のコア講師養成講習。3年に1回程度。18年度全国17会場で実施（受講者1794人）。



ライトアップ（平日夜10:00まで）
した赤レンガ



雪景色の赤レンガ

12

第2部 賀詞交歓会

年末年始の各界有識者や経済評論家の方々の話から、今年は引き続き緩やかな回復基調とのことで、喜ばしいかぎりです。昨年来問題となっていた景気の回復と消費がなかなか結びつかないといった問題も、徐々に解消されていくであろうとの話も大変喜ばしい。

ユーザー業界は、個人消費と強く結びついているので、個人・家庭のこだわりが強く反映してくれるような状態に早くなってくれることを期待。

私たちの組合は、今年創立四十周年となる。関東、関西の醸造用品組合の協力を得て、十年ぶりに総合カタログの発行を準備中であり、井上副理事長を中心に編集委員が推進中。今年の6月頃までに発行を予定している。

数田理事長 開宴挨拶(要旨)



賀詞交換会の模様は、
次ページに掲載!

米国視察に関するアンケートは2月下旬までに組合事務局へ!!

「賀詞交歓会」風景

経済産業省 松浦課長補佐

今年度の政府経済見通しは2%くらいの実質成長。エコノミストは2%前後の緩やかな経済成長。実感なき成長といわれている。

少子高齢化の中で、日本という国がアジアの人口増の諸国といかにうまく連携しながらアジアの果実を日本がどのように取り入れていくかが課題。

日本の新経済成長戦略のポイントは・・・

① イノベーション、② 中小企業のものづくり支援、③ 海外、特にアジア諸国との連携強化。

機器工業組合は、日本人の一番大事な食生活の基本である味噌・醤油・酒造りのための重要な技術を拡大するために、国の施策の積極的活用を・・・。



日本酒造組合中央会 浅見副会長

今年こそ、「底打ち宣言、日本酒の復権宣言ができる年」になんとしても致したいというのが、日本酒業界挙げての気持ちです。

焼酎は、かつてのブームといわれた時代から本当に皆さんから愛された本格焼酎人気の定着の年に・・・。

今回の酒税制度の改正は、その節目をつくってくれた。少子高齢化ではあるが、量から質とともに、量も質も追求でなければならない。そのためにも、皆様方の技術は酒類業界になくてはならない。設備更新、新規投資に際し一層の力添えをいただく年であってほしい。来年の会では、反転攻勢宣言で迎えたい。共に頑張りましょう。



日本酒造組合中央会 蓮尾理事

「清酒はナベ底からV字へ。美しい日本文化、美しい日本酒を愛して・・・。

日本酒で乾杯！」

(なかなかユーモアのある方でした)



喜多社長、腕組みをして・・・どうされました？



エーっと、この酒はどこのかなあ・・・？
あれ、もうない！



井上副理事長 中締め「乾杯三唱」！！
カタログ作成にご協力を！！

『純米』中心に増産へシフト 平成18酒造年度日本酒生産計画

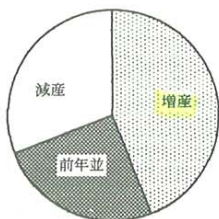
(酒類産業新聞アンケートより)

平成18酒造年度(18年7月～19年6月)は、純米系日本酒を中心に「増産」を計画するメーカーが増えている。酒類産業新聞社が毎年実施している「日本酒に関するアンケート調査」によると……。以下同社のコメントから。

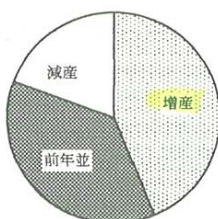
- ▽ 日本酒計、純米吟醸酒、純米酒の3項目で「増産」が多数を占めたほか、普通酒、吟醸酒、本醸造酒でも「増産」の回答率が前回調査より上昇。総じて「増産」に舵を切るメーカーが増加。
- ▽ 長期低落傾向にあった日本酒の需要も、昨年あたりから単月ではプラスとなる月も見られるなど、下げ止まりの兆しが認められることに加え、昨年の酒税法改正を追い風に、需要振興を図ろうとする意欲がうかがえる。

平成18酒造年度日本酒生産計画

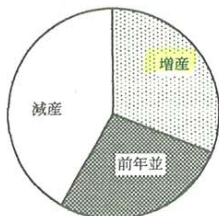
日本酒計



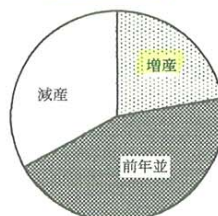
純米酒



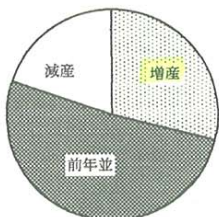
普通酒



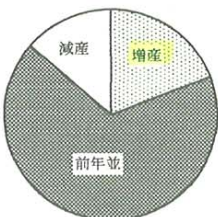
本醸造酒



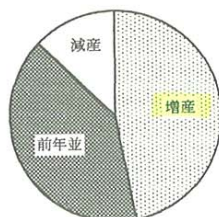
吟醸酒



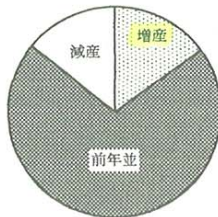
生酒



純米吟醸酒



生貯蔵酒



本調査は、全国の主要日本酒メーカー250社を対象に昨年11月下旬から12月中旬に書面アンケート方式で実施。下の集計表の通り、日本酒を8区分に分け、増産・前年並・減産を7つの選択肢の中から該当するものを選択。

総合的な有効回答数は136、有効回答率は54.4%。

平成18酒造年度日本酒生産計画回答数集計表

	日本酒計	普通酒	吟醸酒	純米吟醸酒	純米酒	本醸造酒	生酒	生貯蔵酒
5%増産	21	8	13	22	23	10	10	7
10%増産	13	10	9	9	14	2	5	2
10%以上増産	26	21	16	31	21	17	10	9
増産計	60	39	38	62	58	29	25	18
前年並	34	34	67	53	49	58	88	85
5%減産	16	17	8	3	8	15	9	10
10%減産	13	15	6	5	4	7	3	2
10%以上減産	13	20	12	9	14	21	6	5
減産計	42	52	26	17	26	43	18	17
総計	136	125	131	132	133	130	131	120

日本酒計、純米吟醸、純米酒で「増産」が多数派に！

《日本酒計》

日本酒計の生産計画をみると、最も多かったのは「増産」で、全体の約44%を占めた。

「減産」が約31%でこれに続き、「前年並」は、25%にとどまった。

地域別では、東日本は「増産」傾向、西日本は「減産」傾向。

《純米吟醸》

最も多かったのは「増産」で、回答率47%を占めた。

「前年並」が40%と僅差でこれに続き、「減産」は13%にとどまった。

地域別では、東北・北海道、東京、東海、北陸、中国の地域で「増産」が多数を占め、関東信越、四国、九州は「前年並」が一番多く、近畿は「増産」と「減産」が同数。

《純米酒》

一番多かったのは「増産」であり全体の44%を占めた。

「前年並」が37%でこれに続き、「減産」は20%。

純米吟醸酒とともに増産意欲の高まりがうかがえる。

地域別では、東北・北海道、関東信越、東京、北陸、九州で「増産」が最多。東海、近畿では「前年並」が多く、四国は「減産」が一番多い。

「とらのもん」雑感（寄稿）

最近思うこと

最近友人や異業種で人に会うと健康やゴルフの話と、後継ぎ問題や事業の承継をどうするかといった話になる。50歳を過ぎれば健康も相当ガタが来ているので、健康には興味があるが、毎日1時間も歩く気力も時間もない。おかげで納豆騒動に巻き込まれなくて済んだが。

同じ歳の豆腐やの社長は、50歳から企業人として仕上げの時期と言う。自分の思いを込めた経営哲学の実現の最後のひと頑張りか、はたまた事業承継に向けての仕上げか…。

社長も長くやって疲れたから早く次代に譲りたいと彼は言う。自分の役目は会社のゴーイングコンサーン（永続）を目指し、先代と次代の橋渡し。精一杯走るだけ。

父は社長交代してから業績が良くなったと喜んでくれたが、自分の能力以上に時代が良かったのではないかと思う。いろんな人に可愛がられ教えられ、それが財産ではないか。

まだまだやり残した仕事の多さと自分がバトンを持っている時間とを計りながらまずは1年後の会社創立50周年に向け人材育成とお客様の役に立つ製品の開発に邁進したいと思っています。

昨日から豆腐やの社長は会社エレベーターを取り付けている。彼いわく「年取って足腰弱ったら会社の階段上がれんさかいなあ」と。

第一工業（株）代表取締役社長 井上 拓

暖冬異変??? 東京日比谷公園に「菜の花」が開花!

例年は2月下旬から3月上旬にかけて開花しますが、今年は暖冬の影響で1月中旬ころから咲き始め、早々に満開です。

当初緑があればいいということで色々な草花が植えられていた同公園ですが、7年前から菜の花の種をまき始めたそうです。

今年は菜の花と同時に梅の花が満開で、暖冬が感じられます。



東京駅に「吟醸バー蔵66」開店

日本吟醸協会が1月から東京駅に「吟醸バー蔵66」を開店した。

全国から66蔵の吟醸酒が集結し、吟醸酒が1グラス300円～400円と低価格でいろいろな蔵元の味が楽しめる。さらに、週替わりで限定吟醸酒が提供される。また、「蔵元ウィーク」では、各週を担当する蔵元から特別なお酒が登場する。

《期間》1月18日～10月下旬

《場所》東京駅八重洲南口地下1階 キラピカ通り（ラーメン街内）

《営業時間》16時～22時

《定休日》なし

